

# 春日遺跡

埋藏文化財発掘調査概報

昭和 56 年 3 月

東出雲町教育委員会

## 序

この報告は、島根県が昭和55年度事業で施行された、宝満山地区県営公害防除特別土地改良事業の工区内に、春日遺跡が所在するために、昭和55年度に於いて、国庫及び県補助金を得て実施した発掘調査の記録であります。

この春日遺跡は、上記の公害防除事業に伴って客土がなされるため、昭和55年4月より2カ月間及び昭和56年1月より3月迄の5カ月間にわたり調査を実施したものです。

当教育委員会としては、この発掘調査に当って関係機関のご指導を得ながら進めましたが、何分にも経験不足でもあり不備な点多々あると思いますが、本報告を通して多少なりとも埋蔵文化財に対する理解と関心が高まれば、誠に喜ばしい限りであります。

尚、本事業にご協力いただいた島根県教育委員会並びに地元関係者各位に本紙を借りて衷心より厚くお礼を申し上げる次第であります。

昭和56年 3 月

東出雲町教育委員会

教育長 宮 廻 勝 重

## 例 言

1. 本書は、東出雲町教育委員会が国庫と県費の補助を受けて、昭和55年4月から約2カ月間及び昭和56年1月から約3カ月間の2回にわたり実施した春日遺跡の調査概報書である。
2. 調査の実施にあたっては、東出雲町教育委員会（教育長宮廻勝重）が主体となり、直接には発掘担当者竹中哲（委嘱）が携り、諸般の事務は同町教育委員会事務局（担当古藤勇技師）があたった。また、調査の遂行にあたっては、多数の地元住民の協力を得た。
3. 本書中の写真撮影、実測図の浄書及び報告書の執筆は、すべて上記調査員がこれを行なった。また、使用した地図は、東出雲町役場作成のものをもとに作成した。
4. 調査にあたっては、山本清（島根大学名誉教授）、大西郁夫（島根大学助教授）の両氏をはじめ島根県教育庁文化課係長勝部昭、同主事石井悠、西尾克己各氏の指導を受けた。
5. 表紙の題字は、東出雲町長門脇朝吉氏による。

## 目 次

I	週 辺 の 概 要	4
II	調 査 の 概 要	6
III	調 査 区 毎 の 概 要	8
IV	出 土 遺 物	13
V	ま と め	18



## I 周 辺 の 遺 跡

本遺跡は、東出雲町大字出雲郷に所在し、意宇川に須田川が合流する地点の東、阿太加夜神社の南東の水田中に中島地区、さらに南の姫津谷の麓の水田中に中ちょう地区が位置する。

付近一帯は埋蔵文化財の宝庫ともいえるところ、東出雲町内における代表的な遺跡を簡単に紹介しておこう。

弥生式土器を出土する阿太加夜神社遺跡、古式土師器や「位至三公」鏡を出土した古城山古墳、古城山横穴群、前方後方墳を含む総数24基以上の姫津古墳群、弥生時代中期の水田址が発見された夫敷遺跡、史跡出雲国庁跡等意宇平野の河口付近に遺跡密集地帯を形成している。

# 東出雲町全図

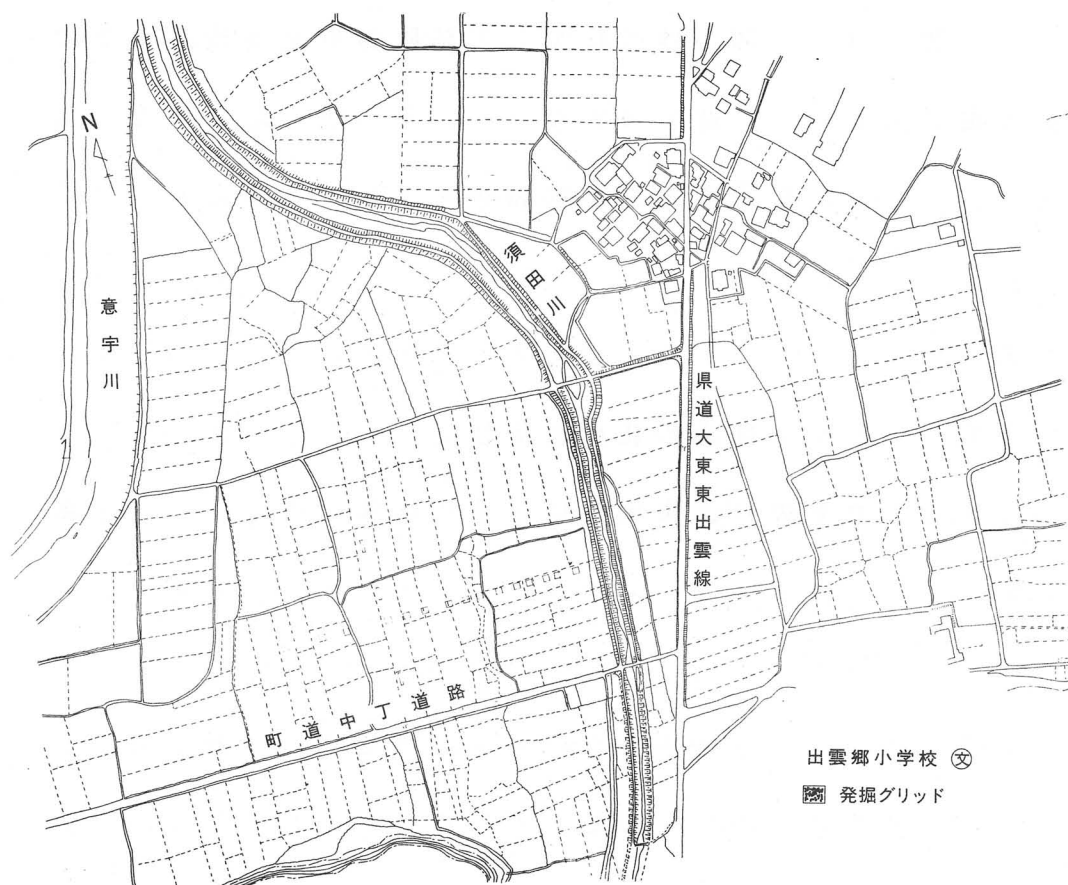


1. 夫敷遺跡
2. 春日遺跡
3. 姫津古墳群、姫津横穴群
4. 阿太加夜神社境内遺跡
5. 古城山古墳
6. 竹ノ花遺跡
7. 栗坪古墳群
8. 内馬横穴群
9. 廻山遺跡
10. 大木権現山古墳群
11. 後谷池横穴群
12. 島田大木古墳群
13. 島田池古墳、島田池横穴群
14. 安垣古墳群
15. 渋山池古墳群
16. 屋台垣横穴
17. 四廻横穴群
18. 東出雲中学校校庭遺跡
19. ヤジ山古墳、ヤジ山横穴群

## Ⅱ 調 査 の 概 要

発掘調査は昭和55年4月26日～6月30日と、昭和56年1月13日～3月17日の2次にわたって実施した。第2次調査は冬季にかかったため、38年以來の豪雪で調査工程が大幅にくるい困難をきわめた。

調査は宝満山地区公害防除特別土地改良事業田区に道路・水路予定地にグリッドを設定する調査方法をとった。第1次は（中島地区） $20\text{ m} \times 20\text{ m}$ を1カ所、第2次（中ちょう地区）は $5\text{ m} \times 5\text{ m}$ を15カ所、 $2\text{ m} \times 10\text{ m}$ を4カ所設定し、順次調査を行なった。



遺跡の地形図



### Ⅲ 調査区毎の概要

この遺跡は、宝満山地区県営公害防除特別土地改良事業による農業用道・水路建設にあたって、その予定地に当たっており、それゆえに、事業の事前調査として行なったものである。

調査地は、第1次が東出雲町大字出雲郷中島で、須田川が大きく西へ曲がる地点の北に、1辺20mの調査坑を設けた。第2次としたものは、東出雲町大字出雲郷字中ちょうで、調査坑は1辺5mのグリッドを水路予定地に東西に設定し、東からT<sub>1</sub>～T<sub>48</sub>として、道路予定地には南北に設定し、2m×10mのグリッドを南からU<sub>1</sub>～U<sub>13</sub>とした。それぞれのグリッドの呼称は南西杭に設定した杭の呼称を利用して調査坑の呼称にあてた。

以下、グリッドごとに土層堆積状況と出土遺物について記すことにする。

T<sub>1</sub> - Gは、地表面下30cm（海拔2.5m）に茶黄色砂層が存在し、その下に白青色粘質土層となる。グリッド西側で茶灰色粘質土が下がることを除けば、ほぼ整然と堆積しており、ほとんど遺物を発見することはできなかった。

T<sub>3</sub> - Gは、T<sub>1</sub> - Gから西へ11mよった所で、地表面下

50 cm ~ 70 cm で黄褐色砂質土層がある。土層の堆積状況はほぼ整然としている。出土遺物は、耕作土中より須恵器片、天目茶碗片など8点出土している。

T<sub>6</sub> - G は、T<sub>3</sub> - G から西へ 4 m よった所で、耕作土 20 cm を除くと茶黄色砂質土層で、以下茶青色砂質土層、白青灰色粘質土層、黒灰色粘質土層で、遺物は全く出土していない。

T<sub>9</sub> - G は、T<sub>6</sub> - G から西へ 14 m よった所で、層序は耕作土以下黄褐色粘質土層、白黄色粘質土層と、一部茶灰色砂質土層が混入していることを除けば、比較的整然と堆積している。遺物は、ここでも全く出土しなかった。

T<sub>12</sub> - G は、T<sub>9</sub> - G から西へ 5 m よった所で、地表面下 94 cm で異色粘土層が存在し、その上に白青色粘質土層、茶白色粘質土層、茶黄色粘質土層、耕作土となる。堆積の状況は、茶灰色粘質土層と白青色粘質土層の間で若干の○乱がみられる。遺物は全く出土していない。

T<sub>15</sub> - G は、T<sub>12</sub> - G から西へ 10 m よった所で、厚さ 30 cm の耕作土を除くと黄褐色砂質土層となり、この層から弥生式土器片4ヶを出土している。南側で落ち込みが認められたが、出土遺物が伴わず遺構であるかどうか確認できなかった。

T<sub>18</sub> - G は、T<sub>15</sub> - G から西へ 11 m の所で、層序は順次上から耕作土、灰青色粘質土層、白青灰色粘質土層、青灰色砂質土層となっており、ほぼ整然と堆積し遺構、遺物は全く検出しなかった。

T<sub>21</sub> - G は、T<sub>18</sub> - G から西へ 11 m の所で、層序は順次上から耕作土、灰青色粘質土層、黄褐色粘質土層、茶青灰色砂質土層となっている。堆積状況は、ここもほぼ整然と堆積し、耕作土中から土師器片を 1 ケ出土している。

T<sub>24</sub> - G は、T<sub>21</sub> - G から西へ 9 m の所で、これまでのグリッドと同様、耕作土、灰青色粘質土層、黄灰色粘質土層、茶黒灰色砂質土層の層序となっており、ほぼ整然と堆積している。遺物は全く出土しなかった。

T<sub>27</sub> - G は、T<sub>24</sub> - G から西へ 15 m よった所で、層序は上から耕作土、灰青色粘質土層、茶黄褐色砂質土層、青白色粘質土層となっている。遺物、遺構は全く検出しなかった。

T<sub>30</sub> - G は、T<sub>27</sub> - G から西へ 10 m よった所で、層序は順次上から耕作土、灰青色粘質土層、白灰黄色粘質土層となり、ほぼ整然と堆積し、遺物、遺構も検出されなかった。

T<sub>33</sub> - G は、T<sub>30</sub> - G から西へ 10 m よった所で、層序は耕作土、灰青色粘質土層、黄褐色砂質土層、薄茶白色砂質土層、茶灰色粘質土層、白黄色砂質土層、黒色粘質土層となっ

ている。他のグリッドにおいては黄褐色砂質土層中に遺物を含んでいるが、ここでは全く出土していない。

T<sub>38</sub> - G は、T<sub>33</sub> - G から西へ 20 m の所で、層序は順次上から耕作土、灰青色粘質土層、茶青色砂質土層、黄褐色砂質土層、黒青灰色粘質土層、青灰色粘質土層となる。グリッド西側の黄褐色砂質土層の上面に落ち込みが認められたが、共伴する遺物がなく遺構であるかどうか確認できなかった。

T<sub>42</sub> - G は、T<sub>38</sub> - G から西へ 15 m の所で、耕作土、灰青灰色粘質土層、黄褐色砂質土層、暗茶黄色砂質土層、暗灰色砂質土層、茶黄色砂質土層の層序となっている。グリッド南西側において溝状遺構を検出したが、部分的であるため正確遺構はとらえられなかった。しかし、茶灰色砂質土層で遺構に伴う弥生式土器片と加工された木製品を出土しており水田址関係の遺構とも予想される。

T<sub>48</sub> - G は、T<sub>42</sub> - G から西へ 25 m の所で、層序は耕作土、灰青色粘質土層、黄褐色砂質土層、黒青灰色粘質土層となっている。が、T<sub>42</sub> - G、T<sub>48</sub> - G とほぼ同じ層序であるが、遺構は検出できなかった。遺物は排土中より弥生式土器片を出土している。

U<sub>1</sub> - G は、T<sub>33</sub> - G から南へ 60 m の所で、層序は耕作土、灰青色粘質土層、黄褐色砂質土層、青灰色粘質土層と

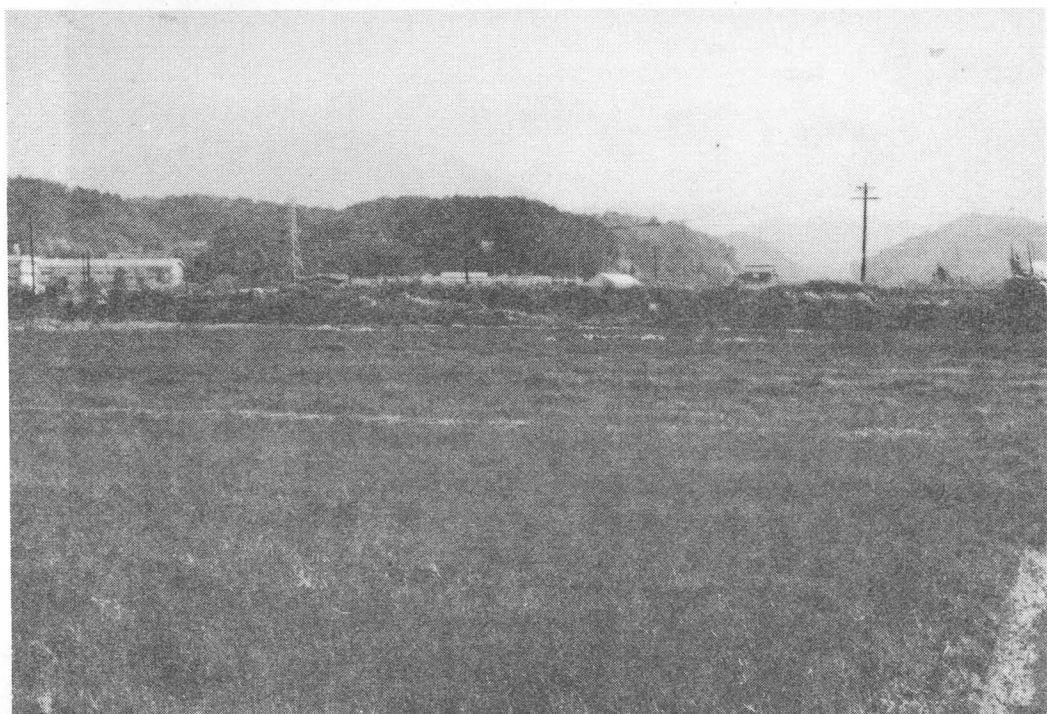


なっている。耕作土中より須恵器片が出土している。

U<sub>3</sub> - G は、U<sub>1</sub> - G から北へ 10 m の所で、層序は耕作土、灰青色粘質土層、黄褐色砂質土層、青灰色粘質土層、茶黄色砂質土層、明黄色砂質土層、薄灰茶色砂質土層となる。遺物としては、黄褐色砂質土層中から弥生式土器片を出土している。

U<sub>10</sub> - G は、U<sub>3</sub> - G から北へ 40 m の所で、層序は耕作土、灰青色粘質土層、茶黄色粘質土層、茶青色粘質土層となっている。ここでは遺物は全く出土していない。

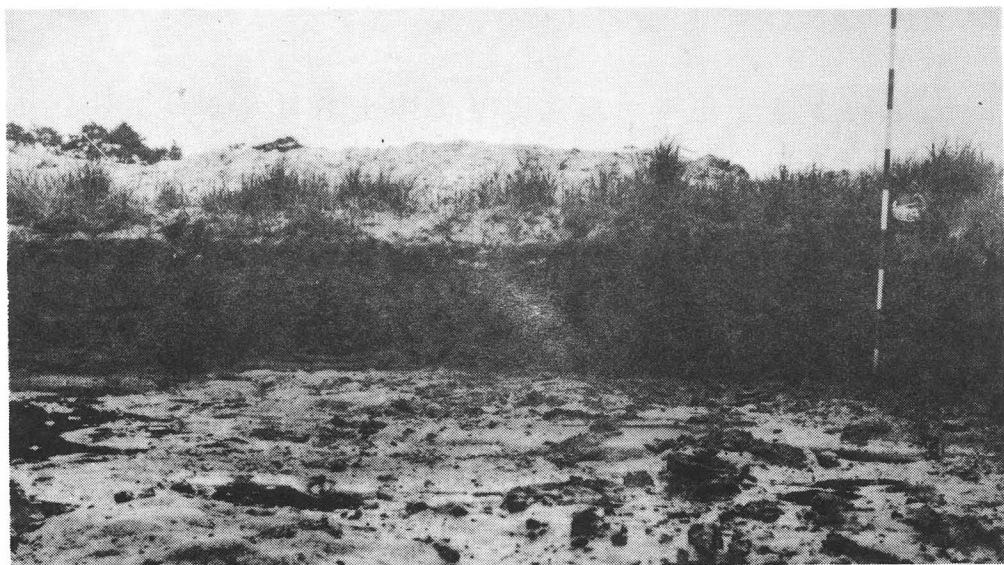
U<sub>13</sub> - G は、U<sub>10</sub> - G から北へ 30 m の所で、層序は耕作土、灰青色粘質土層、茶黄色粘質土層、茶青灰色粘質土層となっている。グリッド中央で落ち込みを検出したが、性格等については不明である。遺物としては、茶黄色粘質土層に弥生式土器片を出土している。



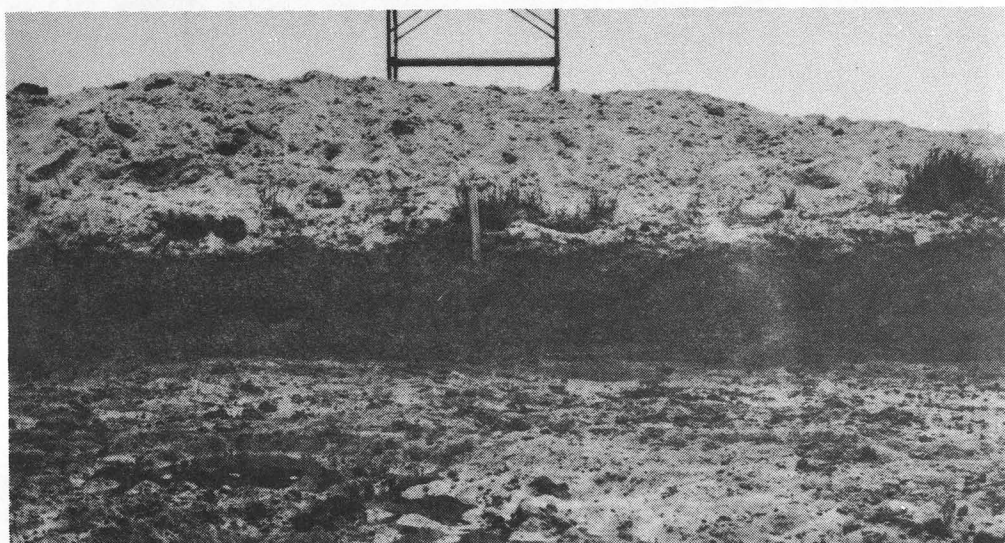
第1次発掘調査地区全景



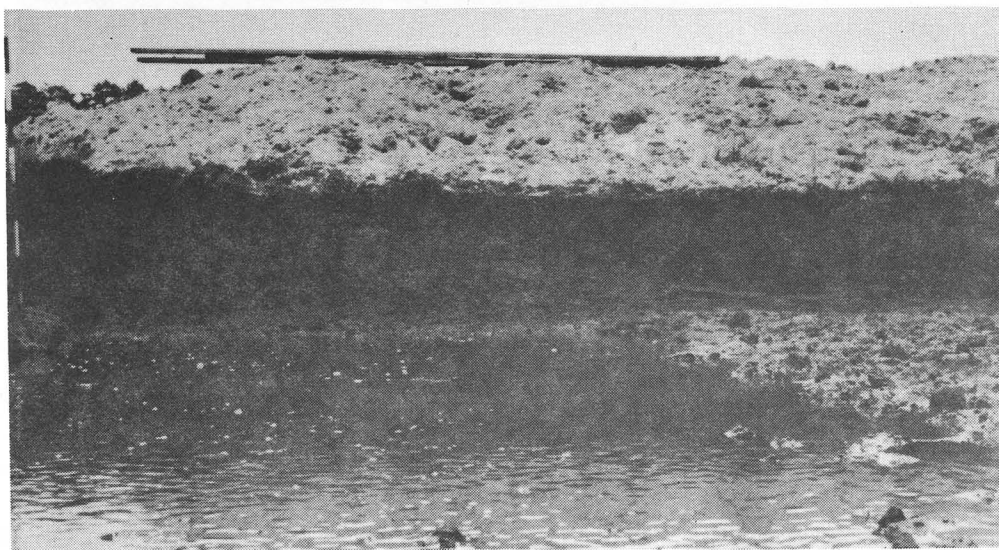
第2次発掘調査地区全景



第1次調査 T1~T48

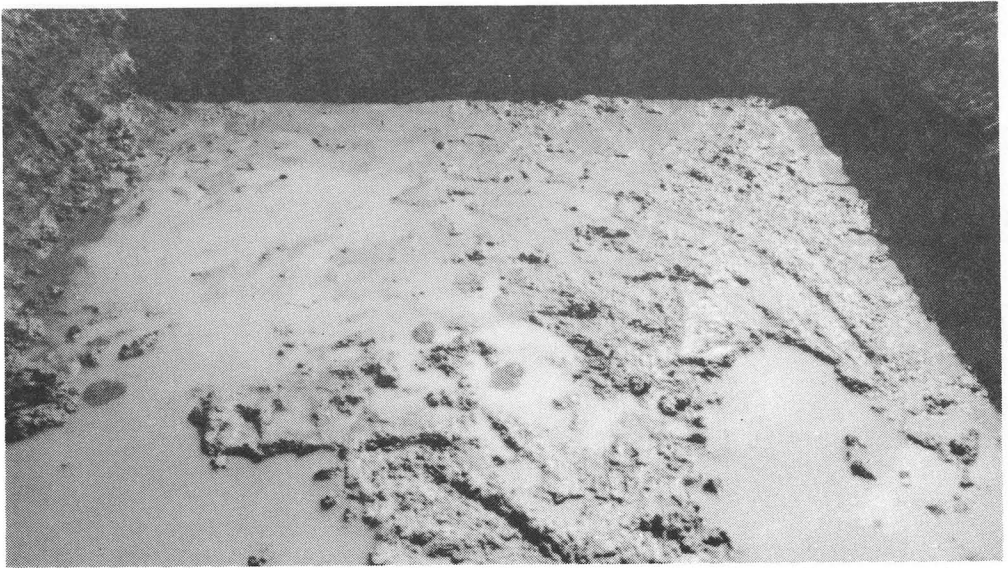


T1~T48



T1~T48

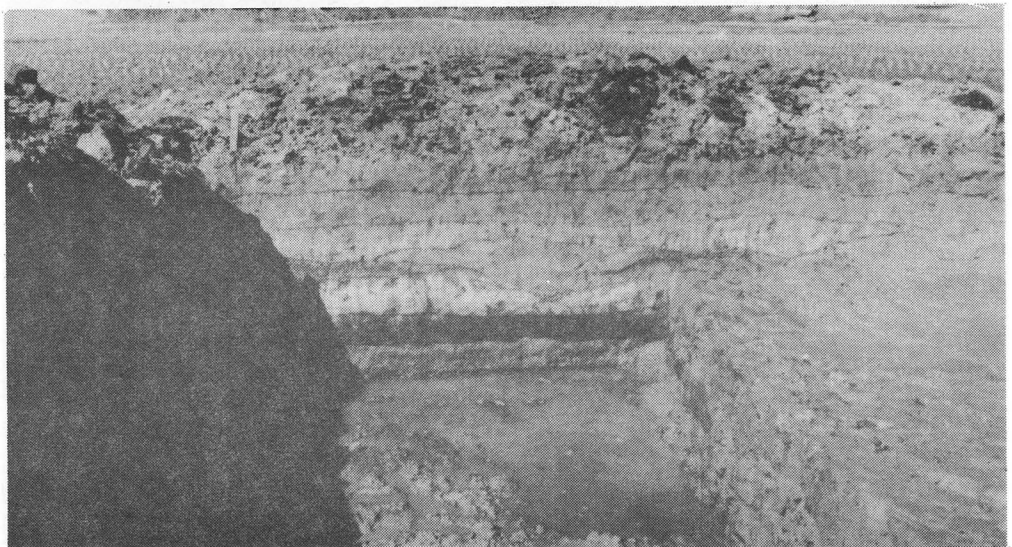




第2次調査 T1-G

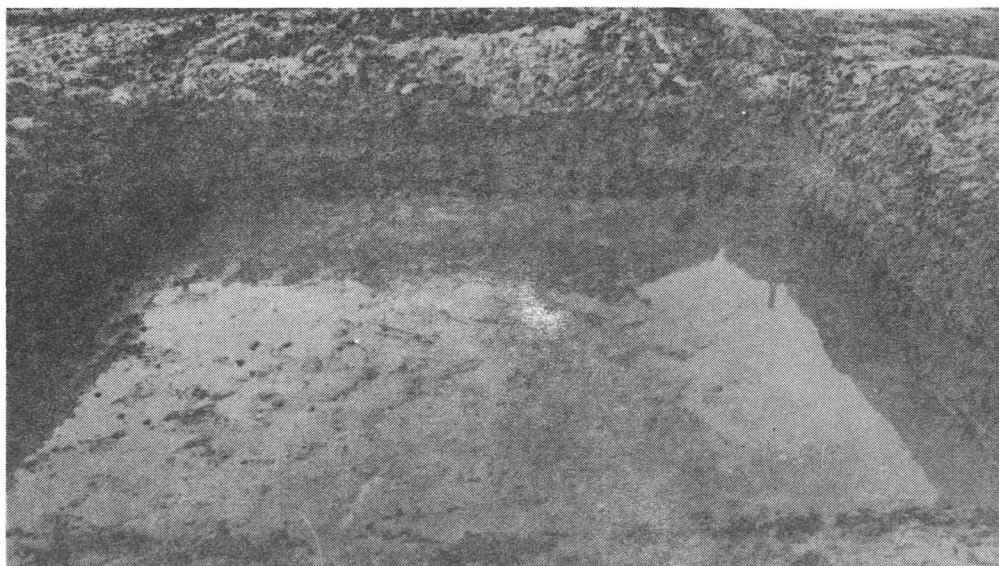


T3-G



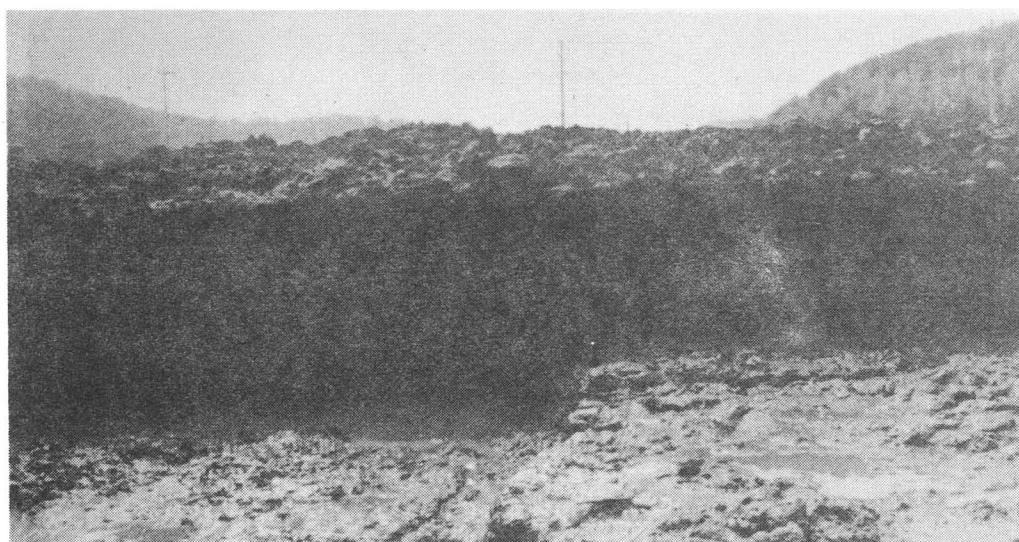
T6-G





0-1T 查爾火S庫

T9-G



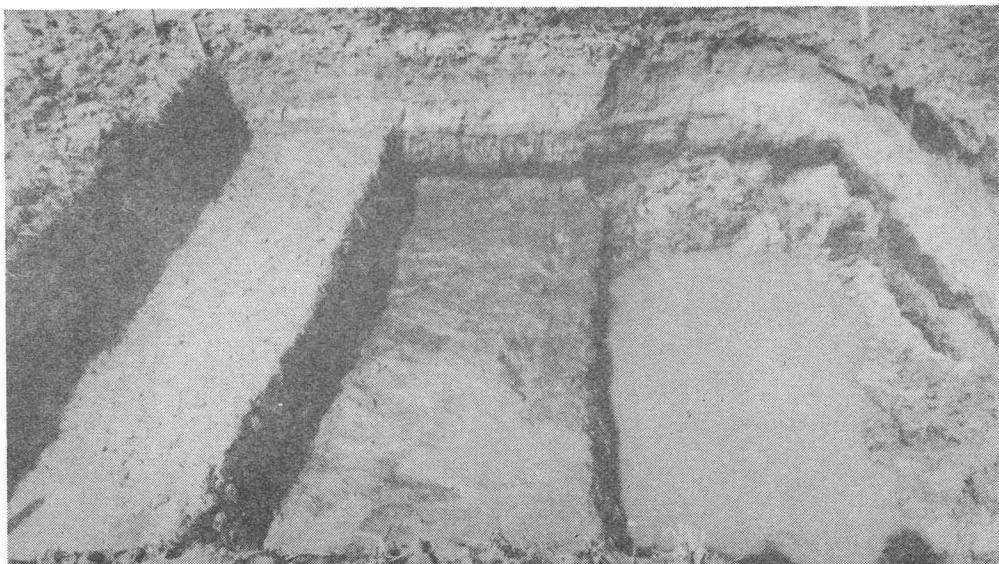
0-ET

T12-G



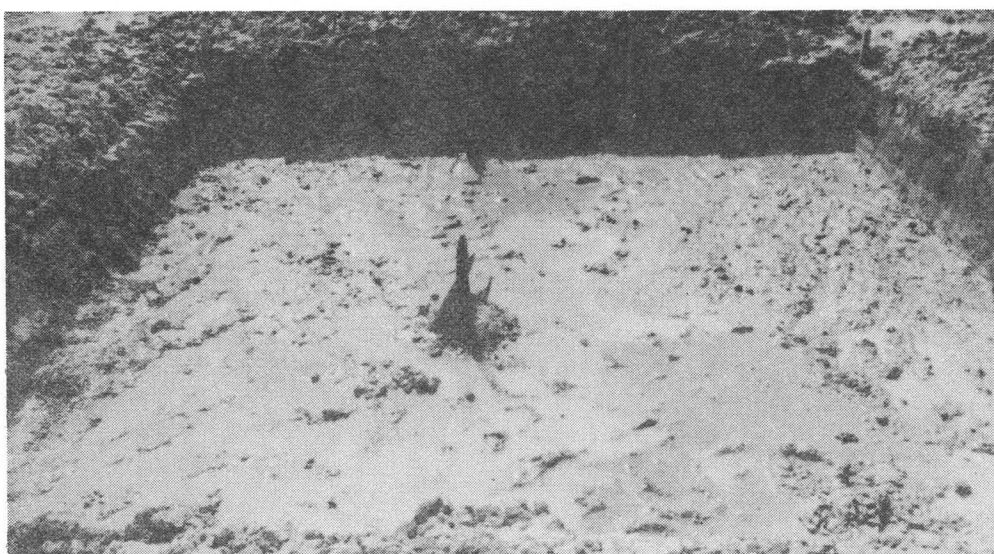
0-8T

T15-G



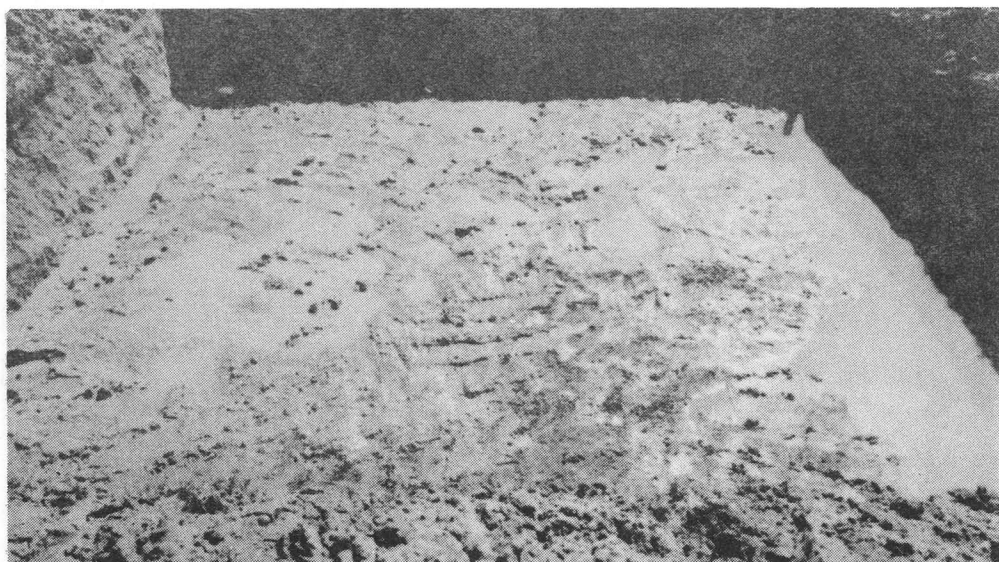
0-EST

T18-G



0-EST

T21-G



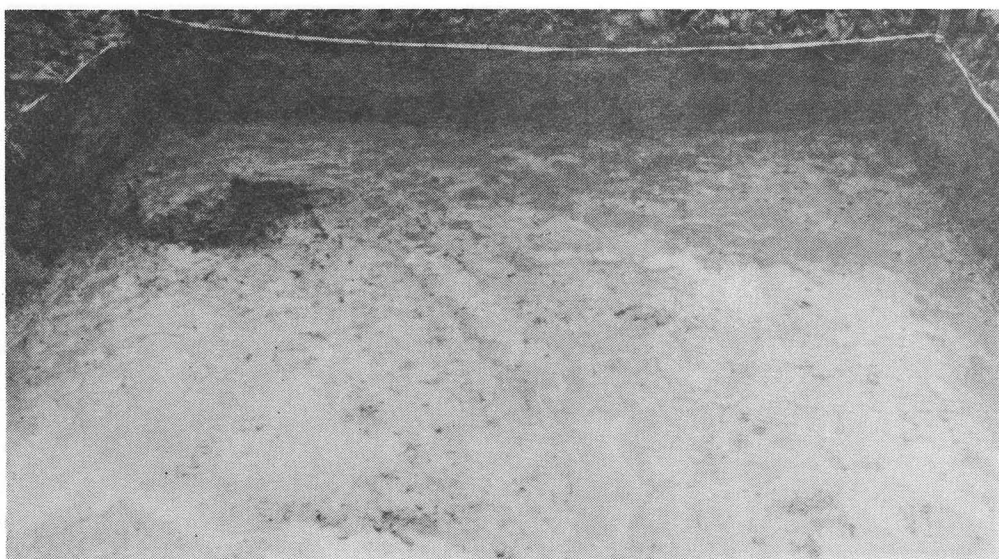
0-EST

T24-G





T27-G



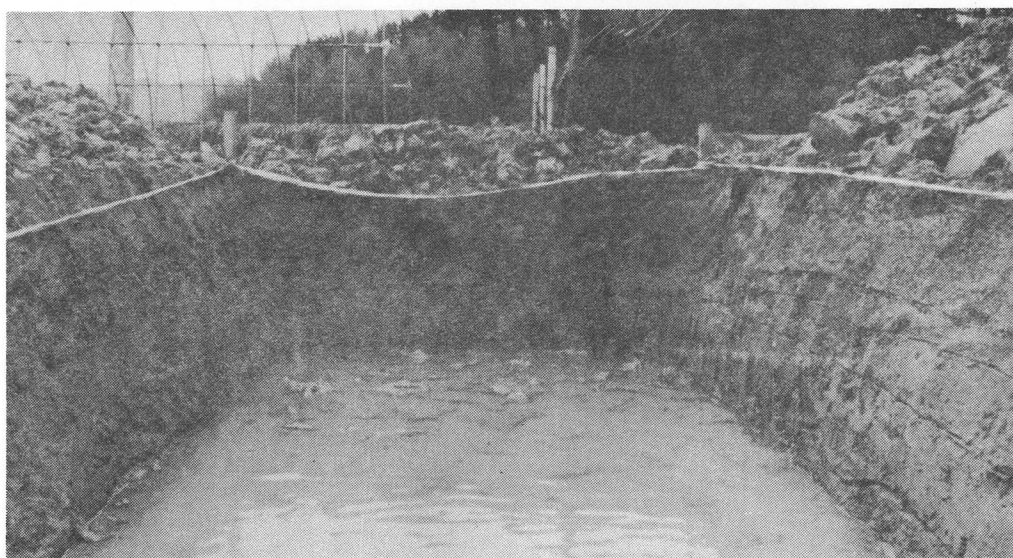
T30-G



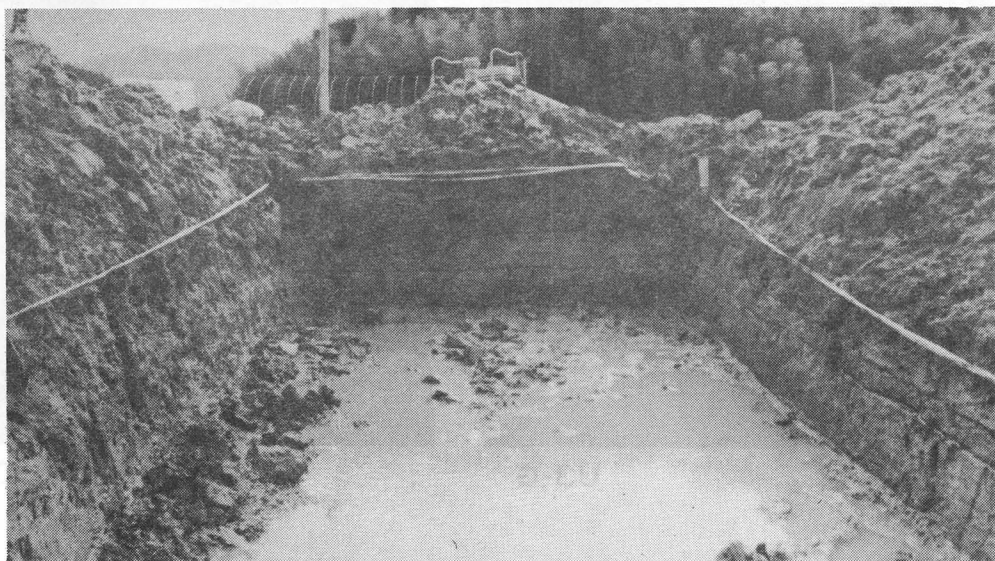
T33-G



T38-G

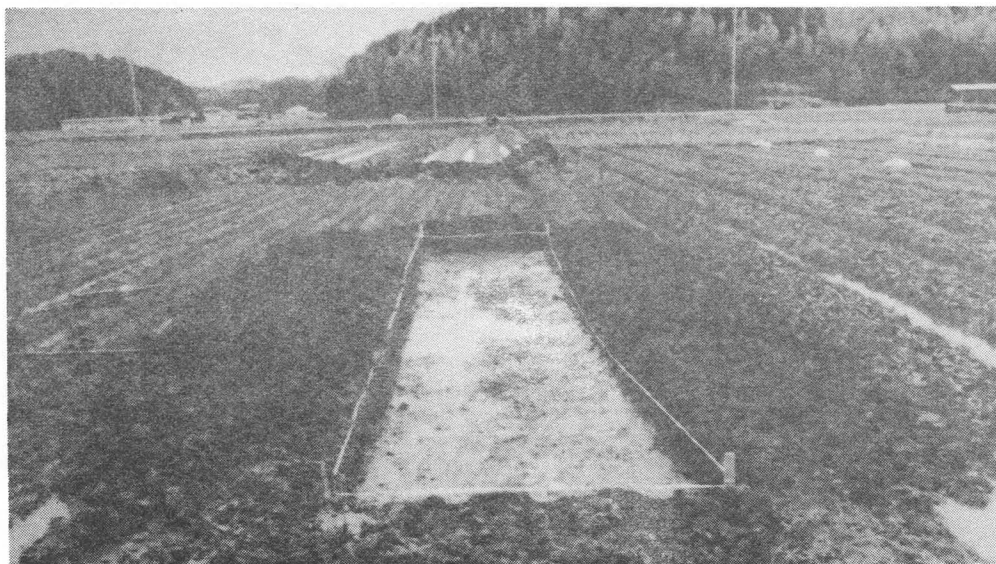


T42-G

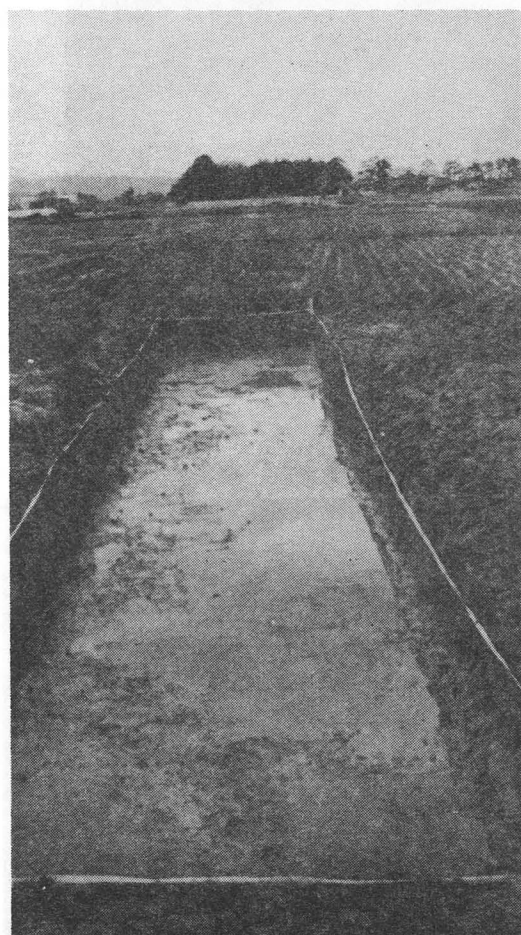


T48-G

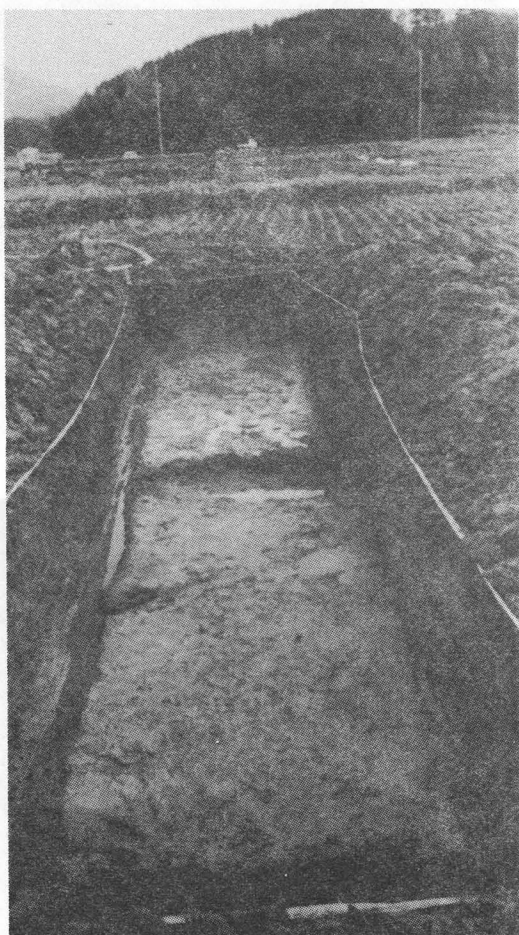




UI-G



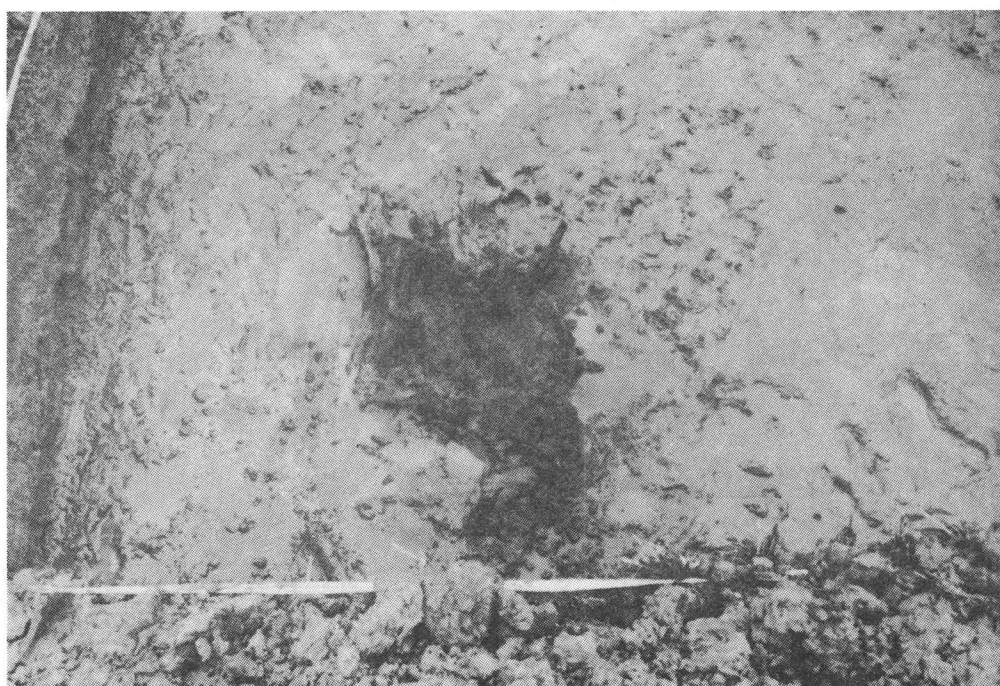
U3-G



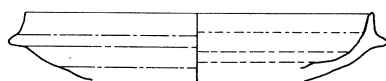
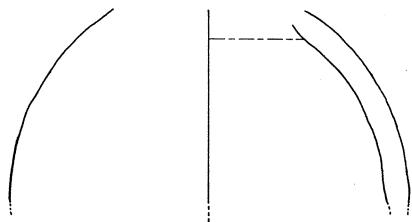
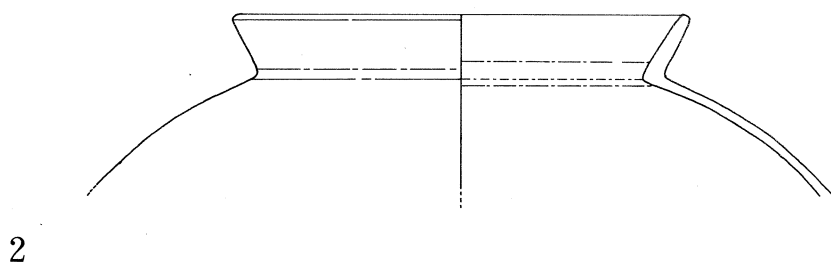
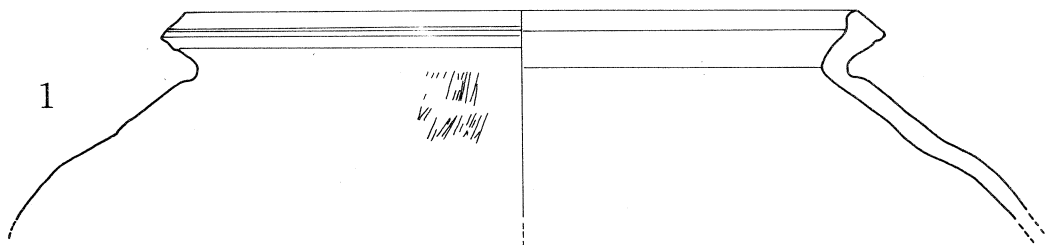
UIO-G



U13-G 弥生式土器出土

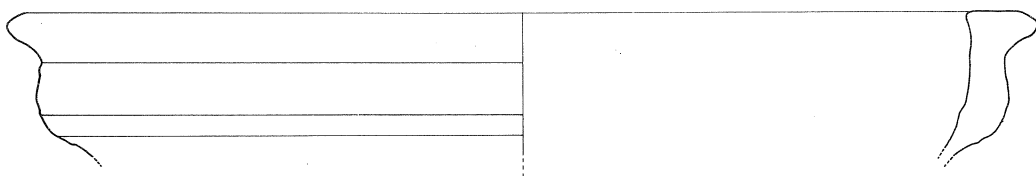
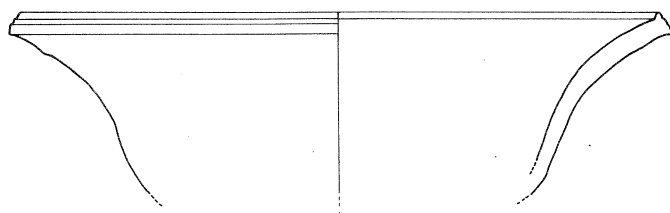


T42-G 木製品出土

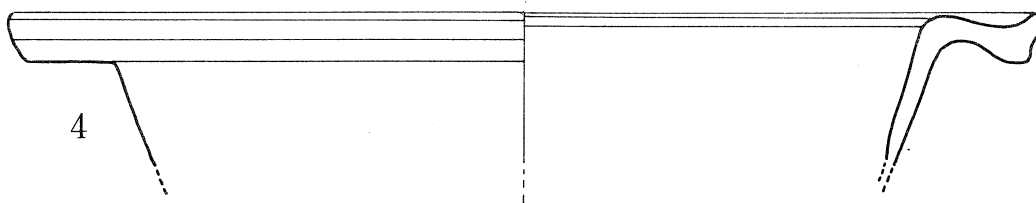


17

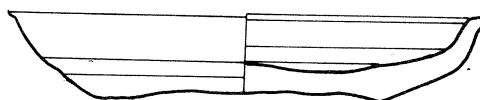
3

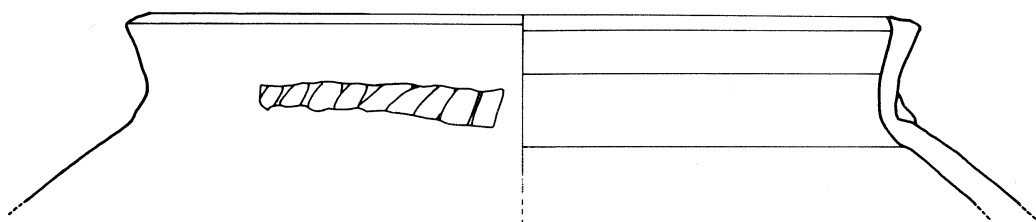


4

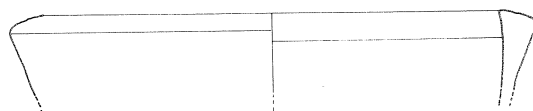
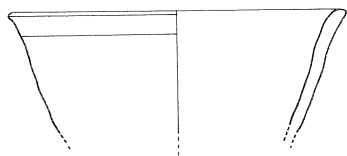
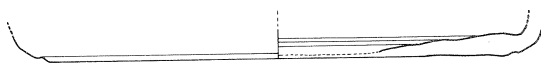
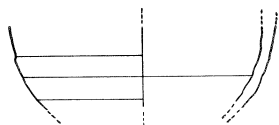
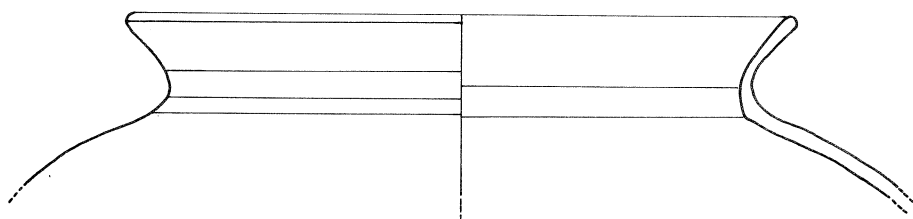


18

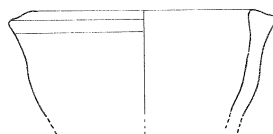




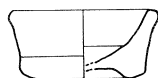
5



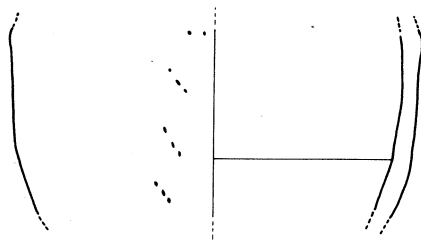
6



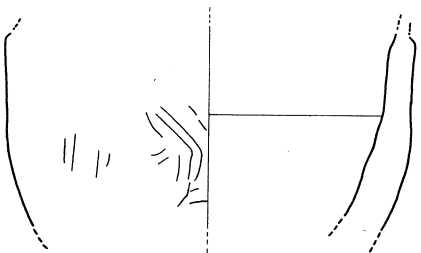
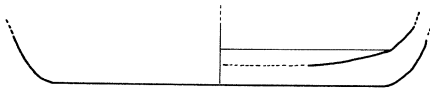
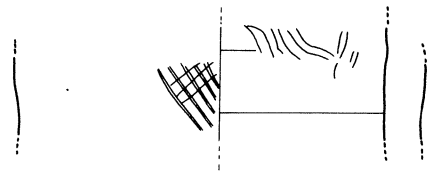
32



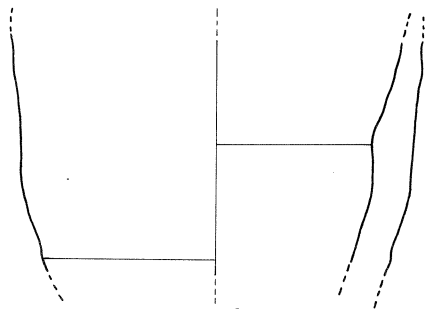
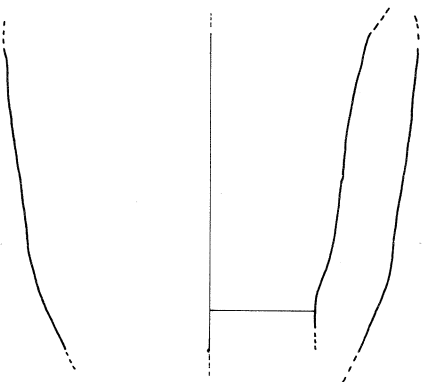
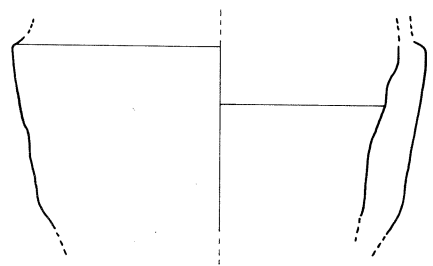
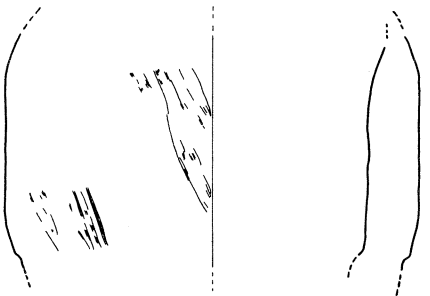
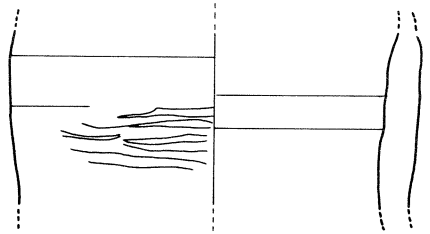


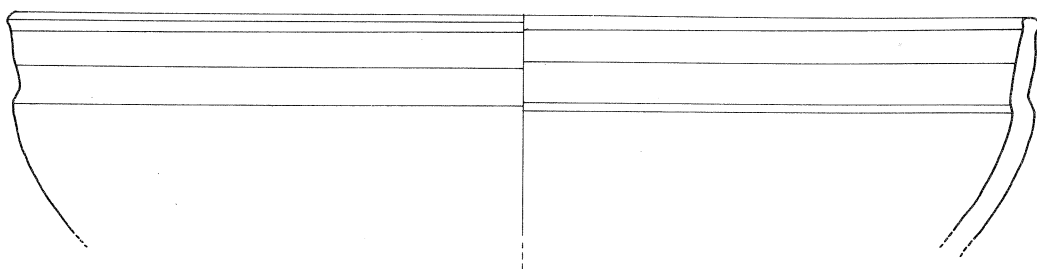


7

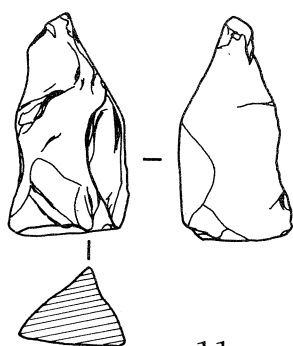
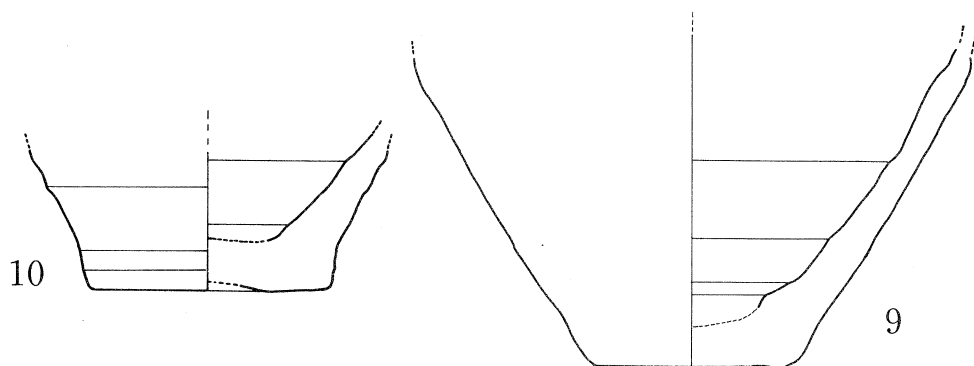


8

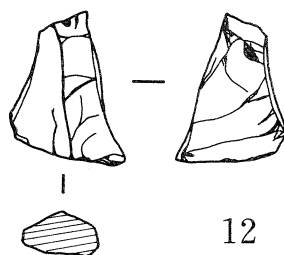




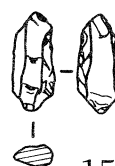
21



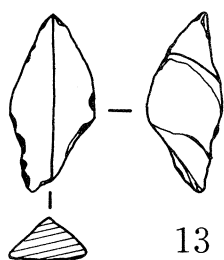
11



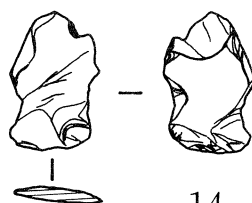
12



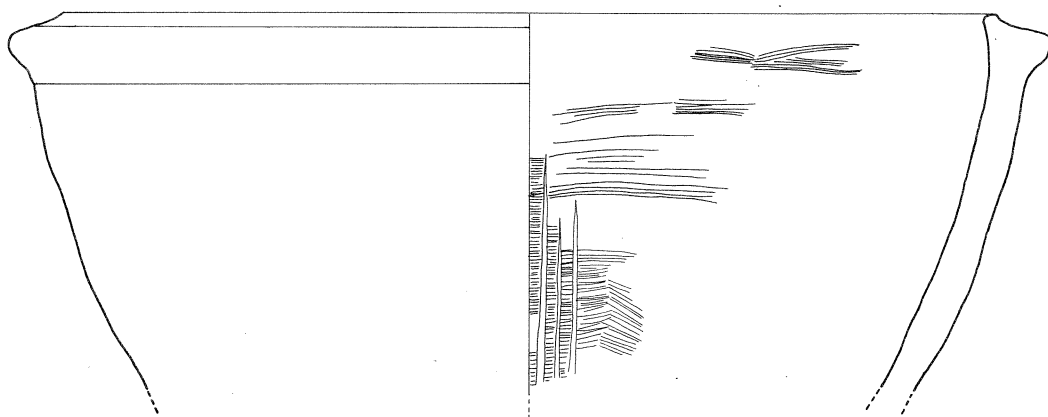
15



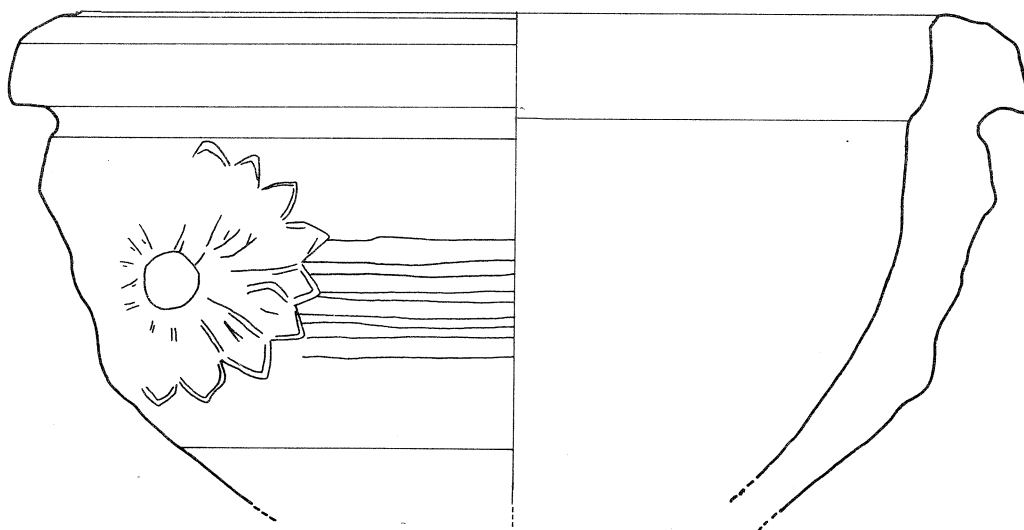
13



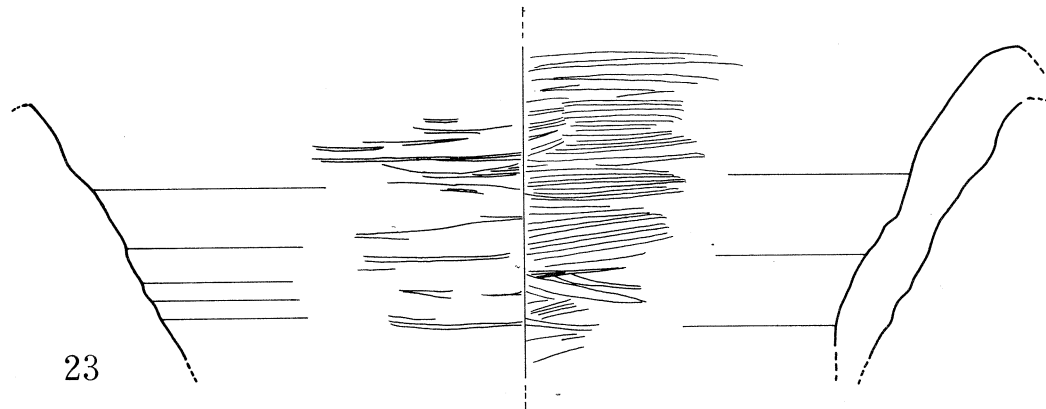
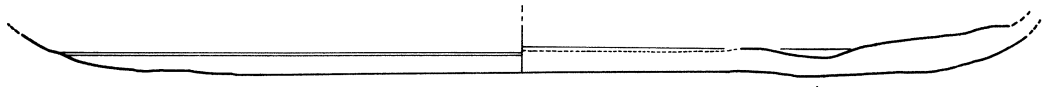
14



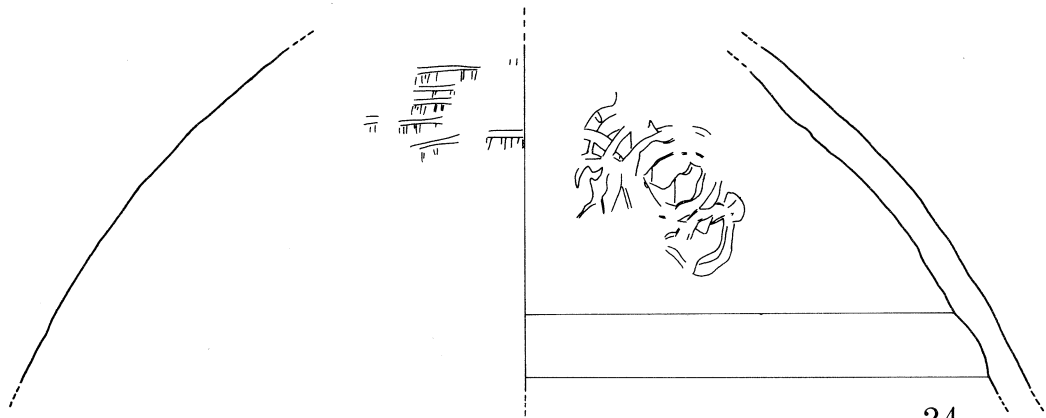
20



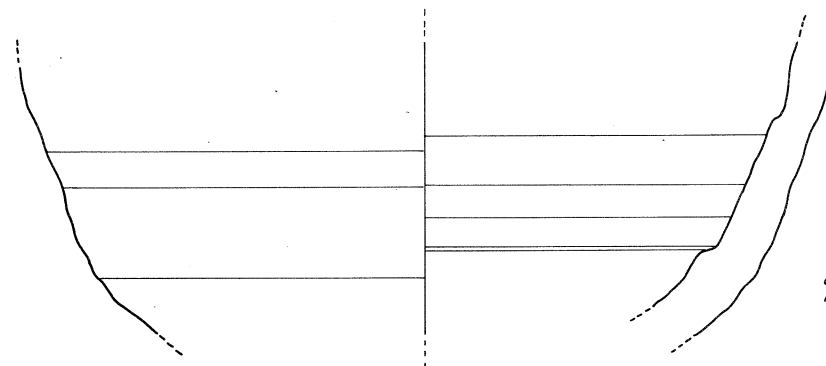
22



23

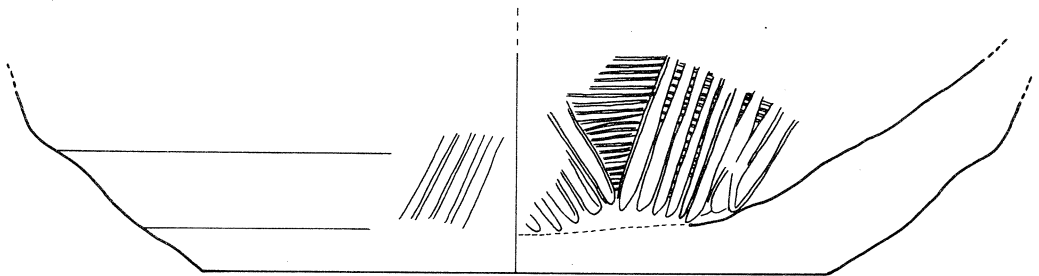


24

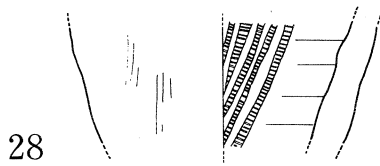


25

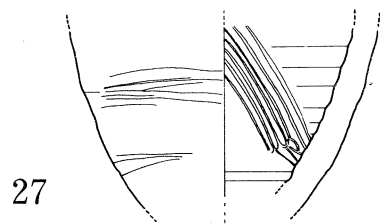
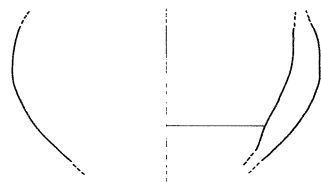




26



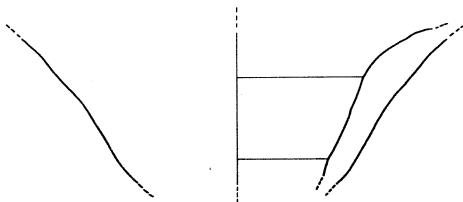
28

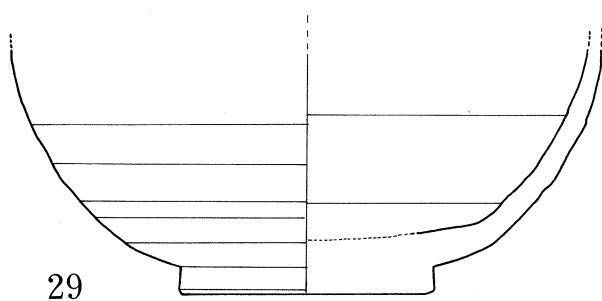
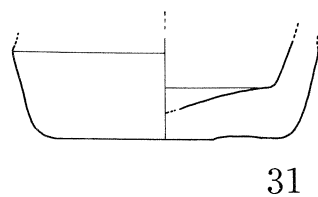
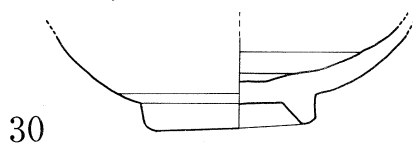


27



16





## V ま と め

限られた発掘面積のために正確な遺構を明らかにすることはできなかったが、T<sub>38</sub>、T<sub>42</sub> グリッドにおいて溝状遺構と木製品を出土するなど、水田に附属するような施設を検出しており、弥生時代中期末から奈良・平安時代ごろまでの水田の存在を予想させた。

また、第1次調査区、第2次調査区のT<sub>1</sub>～T<sub>15</sub>のグリッドは他のグリッドと比較して砂層が深く、また攪乱されており、須田川のはん濫原であったことを推定することができた。

